

かおりの闘うしあわせ改革 第4の柱

# 若者の自立を支援します

## 悩む若者に「居場所」を

不登校や高校中退、ひきこもり、家庭の貧困といった困難を抱える若者に「居場所」を提供し、就労や社会的自立につなげる取り組みが、昨夏からさいたま市で始まっています。大宮区にある「さいたま市若者自立支援ルーム」と「地域若者サポートステーションさいたま」。子ども・若者支援を政策に掲げる富田かおりが、現場をのぞいてみました。

自立支援ルームは、大宮駅にほど近い市街地の一角にある保育園跡地。不登校やひきこもりを経験した若者たちがここを訪れ、人とのつながり、社会との接点を再び見出そうとしています。

私が訪れたのは月曜日の午前中。10代の若者6人ほどが思い思いに過ごしていました。パソコン操作を教えあったり、漢字検定のドリルを解いたり。集中力を高めるためのデッサン教室や書道教室も人気で

す。地元桜木町自治会の運動会や清掃活動と一緒に参加することもあります。

家庭の経済苦から高校を中退し、ひきこもりがちだった男性は「ここは安心していられる場所。外出するようになって身だしなみにも気を遣うようになった」と、少しずつ自信を取り戻した様子。地域住民の温かな理解と協力も得て、ルームは運営されています。

もう一つの支援機関「サポートステーション」は、働くための一歩を踏み出す場所。交通アクセスのよい大宮ソニックシティの地下1階にあります。専属スタッフがその人に合った個別支援計画を作り、マナー講座や模擬面接、協力企業での就労体験を通して就労を目指します。利用者は昨年9月の開所からすでに160人以上となっています。



さいたま市の学習支援教室を視察する富田市議



サポートステを運営するNPOさいたまユースサポートネット代表理事で元県立高校教諭の青砥恭さんは「これからは街づくりの観点から、地域の人材を活用した若者支援のネットワークづくりが課題」と話しています。



- ◆さいたま市若者自立支援ルーム (大宮区桜木町2-227) 月、火、木、土曜の午前10時～午後5時。金曜は午後1時～午後7時。水、日、祝祭日は休み。市内在住の中高生から30歳代までの若者対象。利用料無料。問い合わせは(Tel.048・783・3120)へ。
- ◆地域若者サポートステーションさいたま (大宮区桜木町1-7-5ソニックシティビルB1F) 月～金曜午前10時～午後6時。問い合わせは(Tel.048・650・9898)へ。

かおりの闘うしあわせ改革 第5の柱

# 残業代など市の経費を削減します

## 上司のマネジメント能力向上を

本音トーク

第2弾!!

富田かおりは「闘うしあわせ改革」の重点項目として、残業代など市の経費削減を目指しています。さいたま市の時間外勤務手当は総額38億9千万円(24年度一般会計)で、同規模政令市の千葉市18億9千万円に比べ、ほぼ倍額です。公務員OBのX氏が口を開いてくださいました。



### 残業代月65万円の職員も

**かおり市議** 私は議員に初当選以来、時間外勤務手当の削減について市議会で質問しています。問題は大きく分けて3点あると思います。①同規模政令市に比べて、さいたま市が突出していること②予算額と決算額を比べてみると、決算額が毎年多くなっていること③人員の適正配置と人事管理、職員のワークライフバランスの問題です。

**X氏** さいたま市の残業代は人口当たり職員数がほぼ同じ千葉市の約2倍ですか(表参照)。さいたま市がいかにかい分かりますね。うちの娘はそろそろ結婚しそうですけど、何億円という残業代の一部でも使って、保育所を増設してほしいと思いますよ。子どもを抱えて働いているお母さんたちは、皆そう思っているのではないのでしょうか。

**かおり市議** 議会で質問したところ、年間給与とほぼ同額の783万円もの残業代が払われている職員もいました。月に65万円ほどです。「残業代だけで自分の給料の3倍だ」という声も聞かれました。抜本的な改善につなげたいのですが、苦戦しています。

### 民間とかけ離れた状況

**かおり市議** 私は民間企業に勤めていますが、サービス残業がいいとはもちろん考えていません。いわゆる「ブラック企業」と呼ばれるような会社に勤めている人から相談も受けます。サービス残業当たり前、「嫌なら辞めろ」と使い捨て状態。将来設計がまったく立たないと嘆いています。こうした問題も改善しなければなりません。人数の適正配置や仕事のやり方など問題は

複雑に絡み合っています。しかし、公務員の現状はあまりにも民間とかけ離れていないかということです。

**X氏** 昔から役人の「ダラ残」ということが言われています。ダラダラ仕事して残業するという意味です。もちろん、今ではそんなこと通用しなくなっているのですが、自分の長い役所勤めの経験から推察しますと、「ナアナア体質」も絡んでいると思います。ひとりで説明するのは難しいのですが、あえていえば「内に甘く、外に厳しい」ということです。残業問題に限って言えば、予算を付けたり、削ったりする財政担当部局が残業代を一番多くもらっている現状があります。実際に過重勤務の側面もあるのですが、所せんに同じ職員同士ですから甘くなります。

### 減らしたはずが実際は増加

**かおり市議** 役所は残業代などの人件費をまず確保し、市民生活に直結する予算がピンピン査定して削られる対象になりました。予算計上時には「年々残業代は縮減されています」と執行部から説明を受けますが、決算額でチェックしてみると、逆に年々増えている。これも問題です。

**X氏** それは鋭い指摘です。議員さんたちはこれまで、予算にはうるさくても決算は使ってしまったお金なので、あまり追及してこなかった。でも本当は決算こそチェックしなければならぬはずですよ。

**かおり市議** 予算上は人員を削減したと言って、残業代として結果的に人件費が増

えているのでは本末転倒です。残業が常態化する働き方も問題です。逆に残業代分で雇用を増やせば、市民サービス向上につながるかもしれません。管理職のマネジメント能力の問題もあります。



さいたま市役所

### 市民の血税、引き続き追及へ

**X氏** 公務員の立場からもう少し内情をお話しましょう。毎月の給料は奥さん行き。そこからもらう昼飯代やお小遣いはサラリーマンの例に漏れず少ない。ところがですよ。残業代が多く付いていけば、怖い奥さんも人の子ですから、人情としていつもより多少の色を付けてくれる。「はい、ごろうさま」と夫婦円満。その結果小遣いも増える。それがヘソクリとなって仲間との付き合いや遊興費になるわけです(笑)。

**かおり市議** そうはいつても、市民の大事な血税。そして職員のワークライフバランスのためにも、職員数の削減はもう限界にきている現状です。人事管理と適正な職員配置で、市民のために機能する優秀な職員と役所であってほしい。引き続き追及していきたいと思っています。



## Column

かおりの夢

### 子どもの貧困対策は未来への投資



2009年に厚生労働省が公表した日本の子どもの相対的貧困率は15.7%。実に6人に1人の子が、国民の平均所得の半分以下の家庭に暮らしている。これはGDP(国内総生産)が高い主要先進20カ国の中でも上から4番目に高い貧困率だ。

私は20歳の時に父親を病気で亡くした。まだ大学に在学中で、3歳下の弟は高校生。生活費や学費が重くのしかかった。それでも幸いな事に、周囲の大人たちの助けや奨学金

などを得て大学を卒業することができ、社会人となった。私が子ども・若者支援を政策に掲げるのは、今まで多くの人に支えてもらった分、今度は「大人」になった自分が、同じように若者たちを支えたいという思いがある。

進学や部活をあきらめて弟や妹たちのためにアルバイトをする子や、家計が困窮しているがゆえに高校を中退していく若者たちに私は出合った。親から子へと続く貧困の連鎖は、子ども本人の頑張りだけでは克服で

きない領域にある。人生のスタートラインはできる限り同じであるべきだ。そのための教育環境や生活の下支え、公的支援の充実を図ることが、政治や行政の役割だと考える。

少子高齢社会に突入する中、困難な状況から脱した子ども・若者が労働力として社会に貢献し、地域を支える活力になってくれるならば、そのための「未来への投資」は決して高いものではない。

表 年度別時間外勤務手当支給額比較

年度	22年度	23年度	24年度
さいたま市	41億8千万円	38億3千万円	38億9千万円
千葉市	24億9千万円	23億4千万円	18億9千万円

注 金額は一般会計決算額